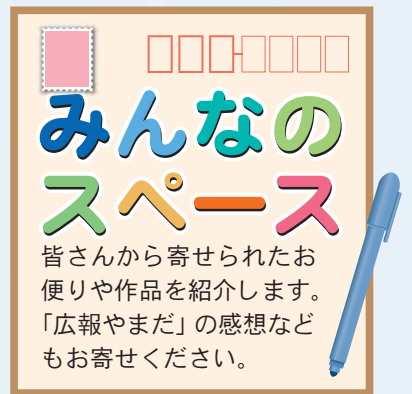




## 感謝

わたしたち、田の浜婦人消防協力隊は、昨年のあの悪夢の3月11日の津波と火災によって、多くの隊員がはんでんを失ってしまいました。それを聞いた盛岡婦人防火クラブの皆さまが、お金を出し合って、はんでんを5着作ってくれました。6月10日の山田町消防演習は、あいにくの雨模様でしたが、おかげさまで盛岡婦人防火クラブの皆さまの善意のはんでんを着用して15名でパレードに参加できました。大変うれしく思い、深く感謝いたします。

五十嵐 まき子(田の浜・65)

## 三地区合同交流会

6月24日、船越地区・田の浜地区・大浦地区老人クラブ交流会が、船越地区の当番とのこと、で防災センターホールで津波後初めて、にぎやかに行われた。その日の参加者は少数かなと

思いきや、なんと予想を裏切って総勢80余名を数え、わたしたち役員は気を良くした。

午前10時開会、昼食の弁当で舌鼓を打ちながら午前午後の地区別による出し物がまた素晴らしかった。高齢者のカラオケ、踊りの活発な身の振り方のしぐさには、腹を抱えての大笑いの連続だった。老体にもめげず、踊りの身の軽さを目にして皆が元気をもらった、その日の交流会だった。

家に閉じこもりがちな毎日のストレス解消になったに違いなし、老後を楽しみながら生きていきたいものと思う。津波後、落ち込みがちな心境を少なからず癒された日だった。そして、津波後の早期復興が後任町長の手腕にあると思うのでその成果を全町民で常に注目したいものだ。

齋藤 忠雄(船越・86)

## つぶやき

大津波の5月初めのことでした。「あなたの手紙が織笠体育館にあるよ」と言われ、早速、半信半疑で出かけました。見つけた文箱の引き出しを見て、絶句しました。中身は大津波で亡くなった知人、友人たちの「文」でした。

原状を保ったまま、荒れ

狂った大津波にもまれながらどうやってぐり抜けたでしょう。1年が過ぎても不思議でなりません。わたしたちを忘れないでといわんばかりに、真の絆だったこと、魂が生きていることを信じております。一枚一枚、丁寧に拭き仮設の部屋に貼り、在の大きい知人、友人たち、在りし日を偲びながら、二度と来ない思い出に「ありがとう」と、つぶやいています。

あまりにも悲しい旅立ちでしたが、「文筆」を形見としていつも一緒です。

これからも浄土からわたしたちを支えてください。

合掌

菊地 サカエ(織笠・77)

## 熊と狼 ①

毎日新しい朝が来て、一日が始まるが、時間が新しく流れ行く中で、新しく記憶に残るのが津波についてである。

梅雨でもない天気の中、行政放送が何かを報じているが、俺は聞こえが難しいので家内に聞くと山の方で(豊間根、織笠)熊注意の放送とのこと。熊が生息していないと思われる当地区の自分とすれば、また熊かと軽く受け流しているが、山の方では生活生産に大きく関わる深刻な問題であろう。熊の注意を聞

くたびに身の引き締まる思いをしているのが、津波の注意報である。

【次号に続く】  
山崎 卓三(大浦・?)

## やまだ文芸広場

旨い物を

食べる時には

皆顔が和む

山崎泰司(船越・66)

## わたしの一枚

「大島と小島とフネ」

山田地区の防潮堤から撮影しました。この時期の夕方は、涼しくて気持ちがいいです。

匿名希望(山田・30)



## 皆さんの作品を大募集中!

◆投稿規定 ▶住所、氏名、年齢、電話番号を明記し、ペンネーム・匿名での掲載を希望する方はその旨を付け加えてください▶営利・政治的活動を目的としたものや特定の個人・団体をひぼう・中傷するものは掲載しません▶400字を

超える投書は添削することがあります▶写真は、1枚(プリントまたはデータ)にタイトル、コメント(30字程度)を添えて、郵送、持参またはEメール(info@town.yamada.iwate.jp)で応募ください。

◆あて先・問い合わせ 〒028-1392(住所不要) 山田町役場 総務課情報係(内線417)へどうぞ。